

## 米山記念奨学生 卓話

2023 学年度米山記念奨学生

金 亮希 さん

(キム リャンヒ)

2000 年生まれ、23 歳、芝浦工業大学  
大学院の建築学専攻で修士 1 年



韓国、ギョンギド ソンナム市 出身。

(ソウルから電車で 20 分の距離)

ベッドタウン、教育がちゃんとしている都市として有名

2000 年に韓国で生まれて高校までは韓国、2019 年、日本の大学に入学すると同時に日本生活を始めました。  
今年、大学院生活が始まり、日本生活 5 年目になります。

様々な所を旅行していて、今まで 30 ケ国に行ってます。  
「なぜ国によって建物がちがうのか？」という小さな疑問から建築に興味を持つように。そこで、建築を勉強したいと思うようになり、日本への留学を考えました。  
「なぜ日本なのか？」

日本の建築学科は他の海外とは違い、建築という大きい枠の中でも工学と芸術を学ぶことができ、それが目指す建築設計であったため、日本へ留学するように。

### 学校生活

#### 研究について

##### 生成 AI

利用者の要求から新しいデータを生成する AI として、新しい創作ができるからこそ話題になっています。  
このような生成 AI はポエムを作ったり、絵を描くこともできます。



「ロータリーの歌の歌詞を作ってくれ」と、チャット GPT に頼んだら、ちゃんと“奉仕”や“手と手を取り”など、ロータリーのキーワードが入ってました (笑)

私はこのような生成 AI と建築設計者が共存する建築設計を図る研究を行っています。

現代の建築設計者は自分が持っている情報で設計していて、客観的に見ることができないが、A.I とやりとりをすることで、設計者が気づいてないところを気づかせてくれます。そして、より良い設計ができるようになることを目指しています。

### 課外活動について

#### フラワープロジェクト

学校と地域をつなぐ道具としてお花を育て、  
大学と地域の活性化を目指すプロジェクト。



#### 大きく 3 つのステップ

- ①種から花を育てます。
- ②学校・地域に広げる過程で、ただ学生で広げるのではなく、学校の教職員、地域の方々も参加し、花植えイベントを行います。
- ③広報活動をし、フラワープロジェクトを運営します。

☆設計課題 (授業) や、  
サークルの展示会の準備を行なっています。



### 奨学生生活

私は去年の 8 月、学校から話をいただき、書類審査から面接を通して合格しました。

3 月にカウンセラーと初顔合わせとオリエンテーション、  
4 月に入学式がありました。急にスピーチするようになり、緊張しました (笑)

5 月には“奨学生バス旅行”で米山梅吉記念館に行って、

奨学会の歴史と背景について深く学ぶことができました。  
6 月には合同委員会がありました (今月、2 回目がありました)。ロータリーからのお知らせがあったり、担当委員との話し合いや相談が行われます。

8 月には、さいたま新都心 RC に招待され、大宮の“いちごの会”さんと一緒に思い出作り旅行に行ってきました。

### 奨学生生活から大きく 3 つを得ることができました

#### ①様々な方と接することができました

今まで私の世界は学校内で終わってしまっていました。  
が、奨学生生活によって皆さんと会えて、他の奨学生とも友達になることができました。

#### ②様々な体験ができました

今までこんなたくさんの人の前で話したこともなかったし、着物を着たこともなかったのですが、奨学生になってからこのような新しい経験をしています。

#### ③学校生活、自分がやらなければいけないことに集中できるようになりました

大学院生になってから忙しくなりバイトも行けず、現在の収入は 0 円なのですが、奨学金のおかげで金銭的な心配をせず、自分の研究活動に集中することができました。

### 建築設計者になりたいと思っています

現在は日本で就職したいと思い、就職活動をしています  
が、その後はもっと広い世界で建築と接したいと考えています。

ロータリーに対する感謝の気持ちを大事にし、日本のロータリークラブと母国である韓国、そしてこれから私が行く国をつなぐ“懸け橋”としてのキム・リャンヒになりたいと思います。